

グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創成」

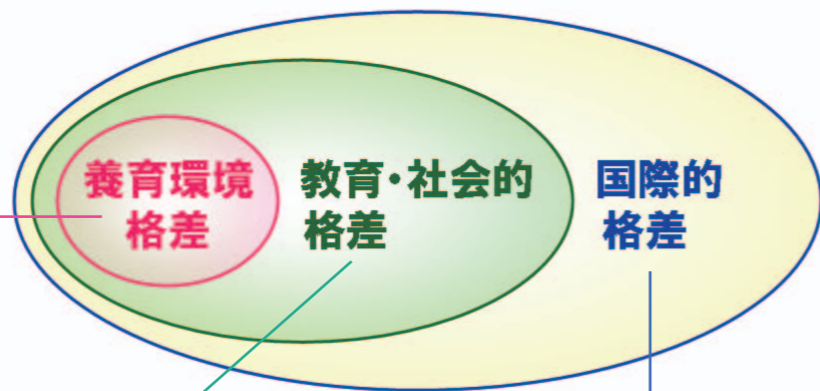
平成19年度に採択されたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」について、拠点リーダーの耳塚寛明教授にその概要を伺いました。

格差センシティブ、というと何やらトレンドな感じですが、お茶大にはジェンダーの問題からの発想の伝統が長く、様々な取り組み、例えば「9時～5時勤務」や学内託児所「いずみナースリー」の設置、学生院生に対しては保育料半額等の施策が既にありました。更に今回に先立つ21世紀COE「誕生から死までの人間発達科学」でプロジェクトを設置、教育学・心理学・社会学の各分野からのアプローチ、分野を超えての研究に取り組んだ中から幾つもの問題が浮き彫りになったのです。例えば収入と学歴が関連付けられる、即ち発達に経済格差や学歴格差がある等です。これにより格差はその代限りに留まらず世代を越えて再生産される事が解ります。こうしたメカニズムの解明と是正の方策を前掲の各分野で協力して研究するのが、このグローバルCOEに繋がる課題です。

この課題の為、本学が得意とする3領域に分類して活動していきます。

“社会的格差”の3領域

格差是正の普遍的モデル



この領域では子どもの養育環境に関する格差について、主に心理学的視点からその解明を目指します。「子どもの家庭養育格差の測定と出現メカニズムを解明する」などが主要な研究テーマです。

この領域では格差を測定し、格差が起こるメカニズムを解明すると同時に格差是正の政策評価を行います。

前者では既に同一集団を対象とした追跡調査を2003、2006年に行い、青少年期から成人期への移行における様々な格差について研究してきました。後者についてマイクロシミュレーション等の手法で教育政策や社会政策の政策評価を強化していきます。

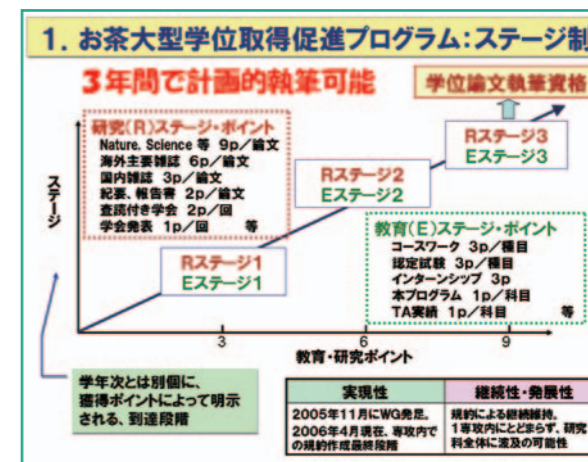
これまでのアフガニスタン、ベトナム、モンゴル、パキスタン等開発途上国の女子教育や幼児教育で培って来た「お茶大モデル」とも呼ぶべき現地化ノウハウを深度化しつつ、幼児教育を中心に、国際的格差構造解明と是正の為の教育支援のあり方について研究する領域です。

COE拠点形成には国際的吸引力を活かし対応、ベトナム国立教育大学のタイ教授、韓国・梨花女子大学李教授の2名の幼児教育専門家を事業推進担当者にお迎えしています。

またグローバルCOEでは予算の多くを教育活動に費やし、「社会的公正性」を追求し、研究・実践両面を行き来しながら活動できる行動力を持った若手研究者養成を志向しています。

1. ステージ制・アカデミックトラック制の拡大

いずれもお茶の水女子大学オリジナルの特徴ある制度であり、ステージ制は博士課程において3年で学位を取得してもらうことを意図して、研究ステージと教育ステージで得点を設け、各ステージで一定得点に達すると学位論文を執筆する資格が得られるようになっていきます。アカデミック・トラック制は学部4年生から修士課程へのつながりをスムーズにするため、学部の卒業論文を修士論文の第一段階と位置づける制度であり、言わば修士課程への学内推薦制度とも言えるものです。



2. 基盤教育プログラム

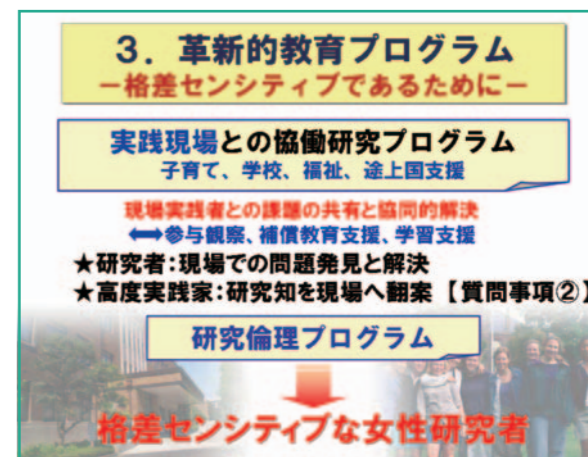
研究者としての基本的な能力養成のため以下の多様な支援が行われます。

- ①公募研究
 - 研究計画を申請し、審査の上で1件につき最大50万円の研究費を支給する制度。
 - 年間20件の枠が用意されています。
- ②交換留学プログラム
 - 自立的研究機会を保障するため、交換留学のかたちで海外における研究活動を支援する制度。
- ③研究発表支援プログラム
 - 国際学会における発表を想定し、国際発信能力を養成するための取り組み。英語で論文を書くセミナーやプレゼンテーションのセミナーを開講し、グローバルに活動できる研究者養成を行います。
- ④リサーチアシスタント雇用
 - 博士課程の学生がリサーチアシスタントとして給料を受けながら自分の研究をおこなう制度。経済的な不安を減らし研究に専念できるようバックアップする取り組みであり、研究状況を審査のうえで年間20人を雇用する予定。



3. 革新的教育プログラム

格差センシティブなマインドを養成するため、子育てや保育などの実践現場との協同研究プログラムに研究費を補助する取り組みとなります。研究と実践現場の連携により研究者は現場での課題発見や解決策を見出し、現場の実践者は研究者から得た見識を現場に反映することが期待されます。該当する取り組みには協同研究補助度として10万円の研究費を補助します。



グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創成」